

(様式 4)

【上富田町】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

中央教育審議会答申「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（令和3年1月）から、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が求められています。

1人1台端末を活用した「個別最適な学び」で、一人ひとりの子供の特性・学習進度・学習到達度などに応じ必要に応じた指導方法・教材などの工夫を行う「指導の個別化」や、子供の興味・関心などに応じた学習活動や課題に取り組む機会の提供を行う「学習の個性化」を実現し、自己調整しながら学習を進めていくことや、「協働的な学び」を通して一人ひとりのよい点や可能性を活かし、異なる考え方を組み合わせてよりよい学びにつなげることを目指します。

2. GIGA第1期の総括

令和2年度に1人1台端末整備を行い、授業の中で端末を活用することは日常となったことで学習環境が劇的に改善されました。コロナ禍においては、児童生徒が物理的に距離を取りながら学習することを余儀なくされましたが、端末と大型提示装置の活用により、安全かつ即時的に情報や考えを共有することが可能になりました。しかしながら、端末持ち帰り（家庭学習との連動）については、ほとんど実施できておらず、次期への課題と考えます。

学校現場では教科や学習場面に応じて、情報の収集・共有のツールとして端末を活用しているが、教職員の端末操作や機器の取り扱いの習熟度に個人差があるため、課題の評価や見届けにおけるICT機器の有効活用や情報モラルやICT機器の活用に関する教職員研修をこれまで以上に実施し、教職員の個人差による授業での活用差が出ないように進めます。

今後は、授業内での端末活用方法について、情報の検索や意見交流に終始することなく、「協働的な学び」の実現により、児童生徒同士が深く関わり合い意見交換をすることで、多様な視点に触れ、自分の考えをさらに深められるようになる「探求的な学習や体験活動」を通じ、子供同士だけでなく多様な他者と協働することで、社会性や協調性が養われる。その結果、相手の意見や立場を理解し共感する能力（共感力）、自らと異なる考えや価値観を尊重し協働する力（多様性の理解）、自分の能力や価値を認め自信を持つ力（自己肯定感）などの力をつけることを目指します。

3. 1人1台端末の利活用方策

(1) 組織的な利活用推進体制の構築

GIGA第1期の課題を踏まえ、各校に向けて情報提供や教材提案などを積極的に行います。また、ICT教育支援員は、教育委員会の事業方針に基づき、総合的一時窓口として各校の要望や課題を受け付け、報告及び教職員の支援を行います。各校の情報教育担当教職員においては、担当者間の情報交換に加え、クラウド上での教材や指導案の共有など学校間交流を活発に行い、利活用の課題解決が図れるよう努めます。

(2) 関係機関との連携による学びの充実

前述の官学連携を継続した取り組みとし、校内研修などにより教職員の指導力育成を行います。また、現代社会の先進技術を積極的に取り入れた出前授業の実施や各校の要望に応じた教材開発・実践など児童生徒の学びの充実を行い、有識者をコーディネータに、同じOSを採用した近隣の教育委員会との合同研修会を行うなど、情報共有の取り組みを進めます。

(3) 1人1台端末の利活用

当町の現状に対し「教育DXに係る当面のKPI」を踏まえ、既に達成している取り組みについては継続することとし、未達成の取り組みについては目標年度に達成となるよう進めます。

新時代を担う児童生徒を育む取り組みとして、学習活動におけるICT活用機会の創出があり、各種学習ソフトの活用促進やデジタル教科書の活用が考えられます。デジタル教科書は、学習者が自分のペースで学習を進められ、個に応じた効果的な学習が可能となるため、より実践的な活用が図れる。学習支援ツールは、1人1台端末を指導者用端末や電子黒板と連携させ、教材などの配布のほか画面共有を行うことで、個々の児童生徒の書き込みをリアルタイムで共有することが可能である。そのため今後は、課題配布や回収などを行い提出物の一元管理や複数人の同時操作による情報整理や意見交換等グループでの協働学習の実践をより進めてまいります。

(4) 個別最適・協働的な学びの充実

子供たちが自らの考えで、目的や場面に合わせて端末を効果的に活用し、課題を発見・解決する力を育成します。そのため、クラウドを活用した主体的・対話的で深い学びを推進し、教員がICTを効果的に活用できるよう授業改善を進めてまいります。

また、児童生徒の情報活用能力やタイピングスキルの向上についても、各校で取り組みを図るよう支援していきます。